

令和2年度 東京都内湾水生生物調査 12月稚魚調査 速報

●実施状況

令和2年12月1日に稚魚調査を実施した。天気は晴で、気温は11.7～15.5℃であった。調査地点の風は0～2.5m/sと弱く、お台場海浜公園と城南大橋では北寄り、葛西人工渚では無風であった。調査当日は大潮で、干潮は11時24分、満潮は16時49分であった(気象庁のデータ)。

採取された稚魚は10月と同様少なめであったが、城南大橋と葛西人工渚で比較的大型のコノシロが採取されたほか、お台場海浜公園と葛西人工渚ではアユの稚魚が採取された。

	お台場海浜公園	城南大橋	葛西人工渚
作業時刻	9:10-10:04	10:27-11:12	11:41-13:05
水温(℃)	15.9	16.2	16.0
塩分(-)	29.3	21.1	23.4
透視度(cm)	>100	>100	>100
DO(mg/L)	5.5	5.9	7.2
DO飽和度(%)	65.9	68.8	83.7
波浪(m)	0.1	0.1	0.1
pH(-)	7.8	7.4	7.8
水の臭気	無臭	弱下水臭	無臭
備考		潮位が高く干潟は干出していなかった。	調査地点の沖ではカモ類が休息していた。

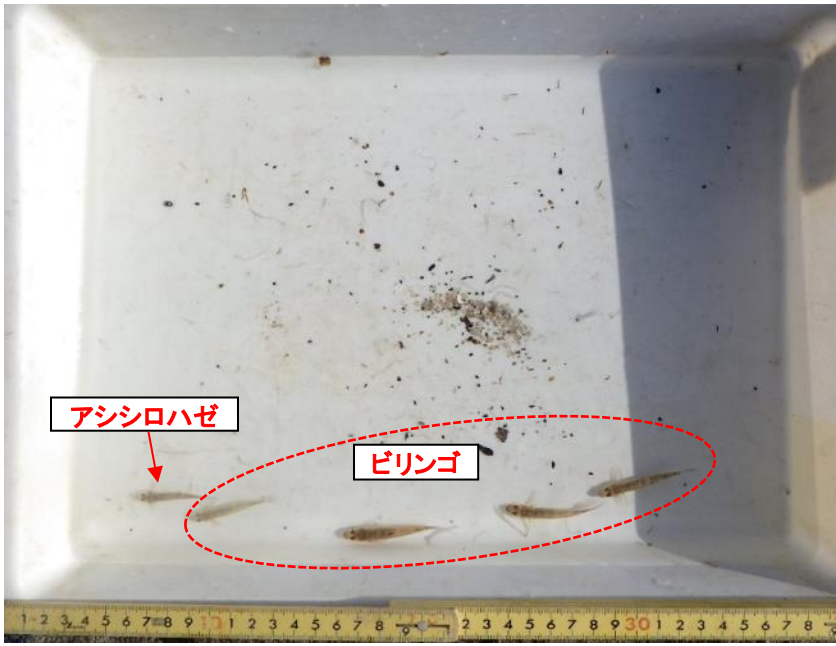
●主な出現種等 (速報のため、種名等は未確定)

主な出現種等	お台場海浜公園	城南大橋	葛西人工渚
魚種 (多い順 ^注)	アユ(+)	コノシロ(r)	エドハゼ(+)
	ビリンゴ(r)	キチヌ(r)	コノシロ(+)
	アシシロハゼ(r)		アユ(+)
			キチヌ(r)
			チクゼンハゼ(r)
魚類以外	ニホンイサザアミ(+)	ニホンイサザアミ(c)	ニホンイサザアミ(G)
	イソコツブムシ属(r)	エビジャコ属(+)	シラタエビ(c)
	メリタヨコエビ属(r)		エビジャコ属(+)
			シオフキガイ(r)
備考	多毛類の巣穴やアカエイの採餌跡が確認された。また目視で15cm程のボラの群れが確認された。		他にアシシロハゼ、ヒメハゼが採取された。

注) 表中の()内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000個体以上、m:100～1000個体未満、c:20～100個体未満、+:5～20個体未満、r:5個体未満

お台場海浜公園 採取試料



レインボーブリッジのたもとにある人工の渚。

●主な出現種等 ※写真のスケール 1 目盛: 1mm



海で生活する間は体の透明感が強い。アユの産卵は夏から秋にかけて河川中流の砂礫底で行われ、10日～2週間後に孵化する。仔魚は干潟周辺で3～4cmになるまで滞在し、その後、河川を遡上する。



湾奥から湾奥にかけての河口域や潟湖に主に生息する。中層を群れで遊泳し、動物プランクトンを食べている。早春にアナジャコ等の甲殻類の巣に産卵する。



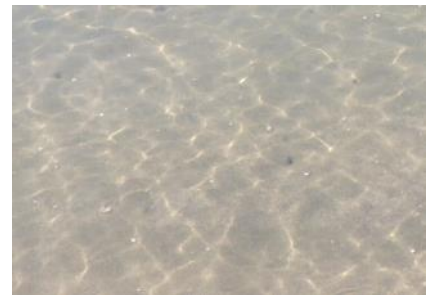
体長は5cmほどになる。体側に白色の横帯がある。初夏～秋にかけて、河口域の沈石や貝殻の下面に産卵する。小型の甲殻類を食べるが、春には干潟域に多く出現し、マハゼの稚魚などを食べる。



ダンゴムシやオオグソクムシに近い甲殻類の仲間。体長は5～8mmで、石の下や海藻の中などに生息する。危険を感じると体を丸めて球状になる。

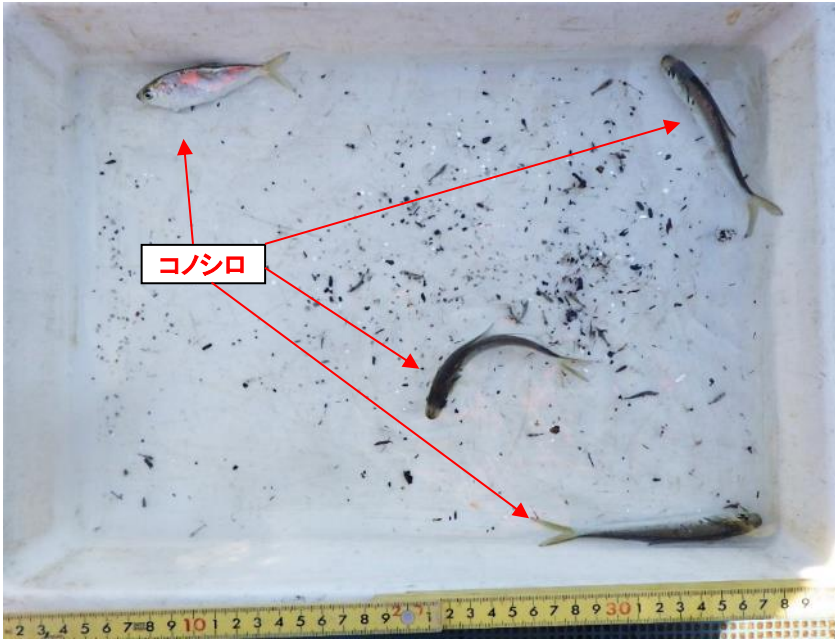


ヨコエビ(端脚目)の仲間。体長は5～8mmで、体は横に扁平である。内湾や河口部などの汽水域の転石下に生息する。



今回は全調査地点において透明度が高かったが、本調査地点は日当たりがよく静穏なことから水底まではっきりと目視でき、全長15cm程のボラの群れが確認された。

城南大橋 採取試料



城南大橋西詰めにある干潟。調査時、干潟は干出していなかった。

●主な出現種等 ※写真のスケール 1 目盛:1mm



東京湾を代表する魚のひとつ。内湾や河口域に生息し、春から初夏に産卵する。孵化した仔魚は内湾の干潟域などの浅所でもみられる。



沿岸の岩礁域や内湾の砂泥底などに生息する。成魚はクロダイに似るが、産卵期はキチヌが10～1月、クロダイが3～6月と異なり、干潟域での出現時期が異なる。



内湾の砂泥底に生息し、普段は砂にごく浅く潜って隠れている。環境の変化に敏感に反応して体色を変化させる。魚類の稚魚などを捕食する。

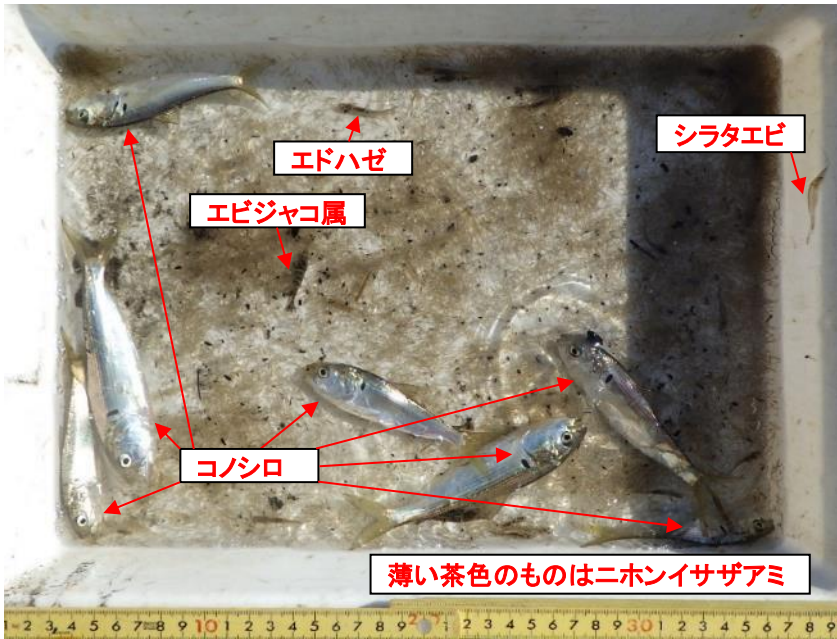


魚に寄生するカイアシ類。コノシロの体表に寄生していたものが採集時に離脱したものである。魚の体表に取り付き、血液を吸って栄養とする。種によって特定の魚種にのみ寄生するものと、様々な魚種に寄生するものがあるが、ヒトには寄生しない。



汽水域に生息するアミの仲間(エビの仲間ではない)。河口域で春に大量発生し、体長10mm程になる。魚類等の餌として重要である。

葛西人工渚 採取試料



東京湾奥にある広大な人工干潟。野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。

●主な出現種等 ※写真のスケール 1 目盛:1mm



*解説は城南大橋を参照。城南大橋から本地点への移動中、東京木材埠頭周辺では、船上から本種の大規模な群れが確認された。



*解説はお台場海浜公園を参照。お台場に比べて大型の個体が採取された。



スジエビ類よりも大型で、体長7cm程になる。汽水域に生息しており、触角が青く、額角がトサカ状に盛り上がることで他種と簡単に見分けられる。



本調査地点では4種のハゼ類が出現した。

エドハゼ: アナジャコの巣穴を隠れ家として利用する。

チクゼンハゼ: 体側の暗色横斑(トラ模様)が濃いことが特徴。

アシシロハゼ: *解説はお台場海浜公園を参照。

ヒメハゼ: 下あごが上あごより突出している。危険を感じると砂に潜る。



*解説は城南大橋を参照。大型の個体は抱卵していた。

